



川岸恵子氏は、特定非営利活動法人あかりの代表理事で、障害のある子どもを育てた経験を持つ。障害のある子と向き合うことの大切さから始まり、障害を分かってあげることで、困った時の対処法、就学準備と小学校生活のアドバイス、中学校や高校さらには社会参加や自立のアドバイス、そして、子育ての悩みが我が子と生きる喜びに変わるアドバイス、へと続く。人生の節々に直面するであろう大切に、でも難しい時期が網羅されている。

冒頭、人生で大切なことはわが子から学んだという。生まれた直後から他児とは違うことに気づき、脳性麻痺、水頭症、三

本書は、障害のある子どもと母親の不安と悩みを解消して、子育てが楽になる、というタイトルの本である。



お母さんの不安と悩みが解消  
障がいのある子を  
育てるのが楽になる本

川岸恵子 著  
1320円 現代書林  
☎03-3205-8384

最終章で、「子どもの命を守るといふこと」というエールが読者に送られる。怒られたりいやなことを言われたりすると、子どもの細胞は弱まり傷つくという。障害があるからといって何も語らず、どうせ分らないといわれる子どもたちの心が、どんなに傷つきやすいか想像してほしいという。

(筑波大学教授・柘植雅義)

角頭蓋と毎年のように診断が変わっていくという現実と医療機関への不信任感。新たな難病の発現と繰り返しの手術、14本もの歯を失う…。しかし、わが子は、苦しいとか、痛いとか、いやだとか、口にはしなかったという。いつも笑顔を絶やさず、人を責めることを知らずに生きていった姿に、力づけられたという。やがて、障害者が生きる場所をよりよい環境にするために、障害者に対する周りの人の理解を進めることが大事であると考えるようになっていったという。